第6次環境ボランタリープラン（2017～2020年度）　地球温暖化対策

領域	項目			2020年度 目標	2020年度 実績
商品	燃費の向上	自動車	• フルモデルチェンジおよび年次改良ごとの継続的な燃費改善を図る	• ダウンサイジングターボエンジン搭載車、次期レヴォーグ、フォレスターを市場導入する • ストロングハイブリッドの先行開発に着手、量産に向けて開発を推進する	• 2020年度燃費基準を達成したダウンサイジングターボエンジン搭載車、次期レヴォーグ、フォレスターを市場導入した • ストロングハイブリッドの先行開発に着手し、開発計画通りに進捗中
商品	クリーンエネルギーの利用	自動車	• 電動車両の導入推進	• 2020年1月20日にメディア発表した環境目標を達成すべく、トヨタ自動車との共同開発EVの開発推進とTHS搭載車両の量産開発への移行を実施する	• トヨタ自動車との共同開発EVの開発を推進し、2022年央販売を目標とした量産開発へ移行し、開発計画通りに推進中
商品	道路交通改善 ーIT技術（自動運転技術・予防安全技術）	自動車	• 先進運転支援システムの展開拡大と、自動運転技術の開発に取り組み、事故を未然に防止する技術開発をさらに前進させ、事故による渋滞の防止と運転支援技術での交通流改善によるCO_2削減に貢献	• 2030年に死亡交通事故ゼロ※1を目指す開発を推進する • 新世代アイサイトの投入や、第三者評価を活用した事故被害軽減技術の周知・普及拡大を中心に、高度運転支援システムの技術開発を継続的に推進する • SIP／ASVなどの産官学の推進計画に沿った活動を継続的に推進する	• 2020年度、新世代アイサイト（交差点事故対応、緊急時ブリクラッシュステアリング、青信号お知らせ機能など）を新型レヴォーグに搭載し、市場投入した • アイサイトXでは、高速道高度運転支援機能（アクティブレーンチェンジアシスト、ドライバー異常時対応システムなど）を市場投入した
生産	生産工場		• 国内生産工場からの生産額あたりCO_2排出量を削減	• 国内生産工場からの生産額あたりCO_2排出量を2006年度比14%削減	• 国内生産工場からの生産額あたりCO_2排出量を2020年度までに2006年度比44%削減
生産	生産工場		• 海外生産工場※2からのCO_2排出量の削減活動を推進	• 引き続き省エネ・再エネ設備の検討を行うと同時に、生産拡大に伴うエネルギー増加との均衡を検討していく	• 2030年度CO_2 30%削減（2016年度比）を掲げ、省エネ・再エネ設備の検討を継続した
物流・販売	物流		• 省エネ法と同期したCO_2削減への対応推進	• 2006年度実績をベンチマークに年1%低減	• 毎年度▲1%達成 • 2020年度のCO_2排出量目標原単位が28.29kg／台（基準年2006年度比毎年▲1%累計）に対し、実績27.82kg／台

※1 SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車などの死亡事故をゼロに。
※2 Subaru of Indiana Automotive, Inc.